

山口県指定無形民俗文化財

周南市安田の系あやつり人形

保存会創立八十周年記念

和霊大明神奉納公演

9/27日

令和8年

三丘市民センター大ホール

開場13時

開演13時30分



寿式三番叟

熊毛北高校による

新版歌祭文
はですがたおんなまいぎぬ
艶容女舞衣

酒屋の段

野崎村の段

しんぱんうたざいもん



【後援】 周南市 周南市教育委員会

安田の糸あやつり人形芝居

安田の糸あやつり人形芝居は、江戸時代後期、四国阿波徳島の藍染め商人「松尾某」が、安田の市で商いの傍ら、人形を手作りして村人に浄瑠璃を教え伝えたのが起源とされています。戦時中一時中断したものの、戦後すぐの昭和二十一年に保存会が結成され（三丘三和会）、昭和五十一年には山口県無形民俗文化財に指定されました。人形は五本の糸で操られる簡素なもので義太夫浄瑠璃の形で演じられます。

会員は現在十八名。平成七年に始まった三丘小児童への継承活動や、近隣の熊毛北高等学校の伝統芸能に関する「総合的な探究の時間」の指導も行っています。

『ことぶきしきさんばそう 寿式三番叟』

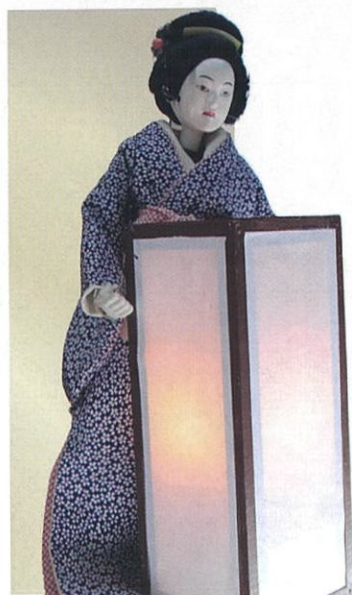
能の『翁』をもとに義太夫浄瑠璃にしたもの。年の初めや芝居の前、重要な行事・祭礼などでよく演じられる作品です。今回はそのうち二人の三番叟の演技の一部を、熊毛北高校の二年生が演じます。



『はですがたおんなまいぎぬ 艶容ゆ舞衣』

酒屋の謎より

大阪上町の酒屋の息子、半七は、女舞芸人の三勝との間に子どもまでいる仲。半七の嫁となったお園は、それらを全部承知の上で、なお半七を慕い、愛されないのは自分のせいと、ひとり物思いに沈みます。その思いを、悲しくも美しい浄瑠璃の音に乗せて、人形の振りで表現します。



『しんぱんうたざいもん 新伝歌祭文 野崎村の謎』

実際にあった大阪油屋の娘お染と丁稚の久松の心中事件をもとにした作品です。

武士の子であった久松は、お家取りつぶしで野崎村の百姓久作のもとで育てられその後大阪の油問屋に奉公に出されていました。そこで主人の娘お染と許されぬ恋に落ちます。しかも店の金を騙し取られる事件を起こしたこともあって、久松は野崎村へ戻されます。今回はここからの上演です。

久作は、久松を女房の連れ子のおみつと夫婦にしたいと願っていたので祝言盃を上げる準備にかかります。おみつに大根を切つてなますを作らせたり、お灸をすえさせたり……。そこへお染が久松の後を追って訪ねてきます。始め嫉妬したおみつも死を覚悟した二人の姿に心を動かされ、尼となつて恋を譲ります。お染は迎えに来た母とともに舟で川を、久松は駕籠で土手を、別れ別れに油屋へ帰って行くのでした。



会員募集

周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会（三丘三和会）

毎週火曜日夜19:30～ 三丘市民センター(三丘徳修館)にて稽古をしています。是非一度 お気軽に見学にお越しください。一同お待ちしております。